５狛江第１５５３号
令和６年３月２９日
東京都立狛江高等学校長
細野　誠治

令和５年度　学校運営連絡協議会実施報告書

１　組織

（１）　東京都立狛江高等学校　学校運営連絡協議会（全日制課程）

（２）　事務局の構成　主任教諭（総務部主任兼務）＝事務局長　１名、及び事務局員　１名

（３）　内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務部主任）、主幹教諭（生徒部主任）、主幹教諭（進路部主任）、主任教諭（総務部主任）、主幹教諭（第１学年主任）、主幹教諭（２学年主任）、主幹教諭（３学年主任）、　計１０名

（４）　協議委員の構成

学識経験者（大学教授等）２名、地域代表、近隣中学校長、同窓会等代表、ＰＴＡ代表、学識経験者（弁護士）、警察署生活安全課長、消防署警防課長　計９名

２　令和５年度学校運営連絡協議会の概要

（１）学校運営連絡協議会（第１回～３回）の開催日時、出席者、内容、その他

第１回　令和５年６月２８日＜出席者＞　内部委員１０名　協議委員６名

教育活動報告。協議委員委嘱。協議委員紹介。評価委員の選出。

令和４年度学校経営報告。令和５年度学校経営計画。

本校の現状と課題等説明。

第２回　令和５年１１月２２日＜出席者＞内部委員１０名　協議委員５名

令和５年度上半期学校経営報告。教育活動報告。学校評価の内容検討。

アンケート項目の検討。

第３回　令和６年２月９日＜出席者＞内部委員１０名　協議委員５名

教育活動報告。令和５年度下半期学校経営報告。学校評価のアンケート結果の分析結果報告。評価委員長から学校長への提言。

（２）評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第１回　令和５年１１月１７日＜出席者＞　内部委員３名　協議委員２名

学校評価の基本方針の確認。昨年度の学校評価結果の分析・考察。

今年度の学校評価の内容。実施時期、評価の観点に向けた検討。

第２回　令和６年２月８日＜出席者＞　内部委員３名　協議委員２名

アンケート集計結果の分析・考察。課題の整理。評価報告書の検討。

分析による次年度の課題等の提言内容の検討。

３　学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

（１）学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で評価する。

（２）アンケート調査の実施時期・対象・規模

１２～１月実施　　生徒抽出　９４７人、回収　６９９人、回収率７３．８％

保護者抽出 ９４７人、回収　２８４人、回収率３０．０％

教職員５９人、回収５２人、回収率８８．１％

地域９０人　回収１８人、回収率２０．０％

（３）主な評価項目

学校生活、学習指導、生活指導、進路指導、部活動、国際理解教育、自己理解、進路実現、等

（４）評価結果の概要

【学習について（生徒・保護者問１～問７）】

保護者回答では、進路実現に対応した学力向上、教え方の工夫、授業への満足度等、全体的に、学年が上がるに従って否定的な回答の割合が減少する傾向が見られるが、３年で「まったく当てはまらない」という回答が少数ある。これは、進路希望としての志望大学受験に向けた取り組みと授業内容がやや乖離していることが考えられる。生徒の進路志望を把握し、目標に向けた指針を丁寧に示してあげる対応も検討する必要がある。一方、生徒の回答では、１年生が否定的な回答が少ない傾向がある。保護者の視点から捉えると、学習面で不十分に見える点も、生徒自身は十分頑張っている、という意識の表れとも考えられる。生徒の意欲を引き出しながら、目に見える結果につながるような指導の継続が求められている。夏期講習等については、３年生の満足度は高いが、１，２年生の保護者の満足度が低い。低学年時の講習の充実を図る必要がある。

【生活について（生徒・保護者問８～問１２）】

部活、体罰・いじめ、カウンセリング等の対応については、肯定的な意見が９０％以上である。一方、校則については、生徒が疑問を感じている傾向が見られる。校内でも改善すべき内容は改善を進め、生徒・保護者への説明も丁寧に行い、理解を得られるよう取り組む必要がある。

【進路について（生徒・保護者問１３～問１６）】

保護者回答では、進路相談・面談について、肯定的な意見の割合がやや低い傾向である。

生徒の回答では、そのような傾向が見られないため、生徒の進路についての意識と保護者の意識の差異が考えられる。生徒には、自分の進路についての目的意識をしっかり考え、自覚させると同時に、保護者との話し合いや面談を計画的に実施し、学校、生徒、保護者が一体となり、目標とする進路実現を図ることを目指す必要がある。また、自習室等については、保護者回答から１，２年生にも利用させたい意見の傾向が見られる。３年生の利用との調整を検討する必要がある。

【特別活動（問１７～問１９）】

特別活動については、９５％以上の肯定的な回答があり、満足度が高い結果である。今年度は、コロナの影響がなくなり、体育祭、文化祭、キラウィ交換留学等が、制限のない形で実施できた。

【健康・安全・施設・運営（生徒・保護者問２０～）】

回答で特に目立つのは、校内美化について、否定的な意見の割合がやや多い点である。トイレ、水回り等については、学校広報の学校見学会の来校者アンケートでも指摘されることがある。施設の老朽化等にも対応しながら、計画的に維持管理する必要がある。

【その他】

地域回答より、一部の本校の生徒が交通ルールや電車の乗車ルールを守っていないことについて「まったく当てはまらない」という回答が寄せられている。校外での行動について、自覚を促す指導を継続する必要がある。

4　学校運営連絡協議会の成果と課題

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・生徒及び保護者へのアンケート結果より学校生活への充実感が高く、更に学校生活全般の質の向上に対する期待が大きい。

・保護者、地域、近隣中学校等からの本校への関心・期待が非常に高い。今後も教育活動をより一層充実させながら連携を深めていく。

・協議委員による様々な意見を学校経営に活かすことができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

・大学進学に目標を定めた授業改善や各学年に必要に応じた講習や補習を実施するなど、学校全体で推進していく必要性がある。

・放課後や自宅での学習時間、学習する場の確保する場が足りない。また、自習室が３年生以外の１、２年生が利用できていない。

・学校全体として、生徒、保護者との進路相談や面談が十分であるとはいえない。

・国際交流や修学旅行等の学校行事の取組について一定の満足は得られているが、更に充実した内容としていく必要がある。

・一部の生徒ではあるが、電車の乗車ルールが守られていないなどマナーが悪い。

・学校美化や施設老朽化に対する否定的である。

5　学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

（1）　学校運営

・保護者、地域、その他の関係機関との連携を深め、教育活動のより一層の充実を図る。また、学校ＨＰやオンラインの連絡ツールを活用しながら情報を発信する。

・本校のグラウンドデザインに基づいた新教育課程の適切な実施と、学習や学校行事等の教育活動の更なる充実を図る。

・放課後や自宅での学習時間、学習する場の確保するために、校内に自習するスペースを十分に確保し、３年生のみならず１、２年生も学習する場を活用できるようにする。

・学校美化、施設老朽化には改善できるところから適宜対応する。

（2）学習指導

・大学進学に目標を定めた授業改善を学校全体で推進する。また、長期休業日中の講習・補習は

生徒の状況に応じた講座を適切に設定し、組織的・計画的に生徒の学力向上を図る。

・週末課題やオンライン学習ツールを活用することで、生徒の自宅学習時間を増やし、基礎学力の定着・向上を図る。

・教員相互の授業参観や研究授業を活用しながら授業力向上を図る。また、校内研修を組織的に計画しながら実施していく。

（３）特別活動

・学校行事や部活動において生徒の主体性を育んできたが、協議委員の意見も参考にしながら、今後はより一層の充実したものとする。

・国際交流や修学旅行等の学校行事の取組について、今後も充実した内容としていく。

・防災教育の充実を地域と連携を図る。

（４）生活指導

・「挨拶の励行」「規範意識の向上」「ルールやマナーの遵守」等の指導を更に充実させる。

・電車の乗車マナー等、規範意識を醸成に向けた生徒指導の充実を図る。また、自転車乗車時のヘルメット着用も生徒、保護者へ促していく。

・学習と部活動との両立のために活動日や活動時間をバランスの良く設定する。

・校則の見直しについては、生徒や保護者と共通理解を図る。

（５）進路指導

・共通テスト受験に向けた進路指導について、成果と課題を明確にしながら対応する。

・進路部と各学年が密に連携し、１年生から３年生まで系統的、かつ組織的・計画的な進路指導を充実させる。また、生徒・保護者との面接指導を適切に実施する。

・長期休業日中の講習や日常的な補習等を効果的に設定し進路指導に活かす。

6　「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

（1）　協議委員人数　　５人

（2）　学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多分そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5						

7　職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】　職員会議　なし　　企画調整会議　なし

【成果】　内部委員による報告等により職員へ周知した。委員の意見を参考に、目指す学校像に基づく教育活動の充実化に向けて改善することができた。

8　その他

・学校評価アンケートの回収方法を検討し、回収率を上げていく。

・学校評価アンケートの内容をさらに精査・分析し、学校経営に生かしていく。